



▲
新工場は2014年末ごと取得。敷地は5590平方㍍、延べ床面積1700平方㍍の2階建て工場棟のほか、広さ610平方㍍の倉庫を備える。現在、急ピッチで補強や改修な

大和合金は東京都板橋区から親会社・三芳合金属工業の近接地に移転する

(新本社工場)

に、空き工場用地を建物

0平方㍍、延べ床面積1

700平方㍍の2

階建て工場棟のほか、広さ610平

方㍍の倉庫を備え

る。現在、急ピッ

チで補強や改修な

ど

の工事を進めており、

早ければ6月中にも東京

に、

複数台のNC旋盤を導

入する計画。

大和合金の扱う銅合金

製品は、鉄道や船舶、発

電などインフラ関連業種

で需要が増えている。最

近取引が始まつた海外の

航空機部品向けでも需要

が拡大している。萩野社

長は「これまで親会社と

再検査などのやりとりで

浪費していた時間がなく

なり、歩留まり向上や納

品の時間短縮につなが

る」と期待している。



大和合金

埼玉・三芳に6月移転

親会社近接地 製造・出荷一貫体制

[川越] 大和合金（東京都板橋区、萩野源次郎社長、03・3960・8431）は、埼玉県三芳町に取得した新本社工場に6月に移転、稼働する。同社は銅合金製品の加工販売会社。親会社で銅合金製品の製造を原材料から担う三芳合金属工業（埼玉県三芳町、萩野茂雄社長）の近接地に移転することで、製造から機械加工、検査・出荷まで一貫して行う。新工場稼働に要する総投資額は数億円と見られる。

どの工事を進めており、板橋の本社工場から事務機能も含めて全面移転が拡大している。萩野社長は「これまで親会社と再検査などのやりとりで浪費していた時間がなくなり、歩留まり向上や納品の時間短縮につながる」と期待している。